

駿河湾石花海周辺におけるOBS地震観測の**b**値について

On the *b*-value of the OBS seismic observation around the Suruga Bay Senoumi

*曾谷 太洋¹、馬場 久紀⁴、西宮 隆仁²、中尾 凧佐¹、長尾 年恭³

*Taiyo Sotani¹, Hisatoshi Baba⁴, Takahito Nishimiya², Nakao Nagisa¹, Toshiyasu Nagao³

1. 東海大学大学院、2. 気象庁気象研究所、3. 東海大学海洋研究所、4. 東海大学海洋学部海洋地球科学

1. Tokai University, 2. Meteorological Research Institute, Japan Meteorological Agency, 3. Institute of Oceanic Research and development, Tokai University, 4. Department of Marine and Earth Science, Tokai University

駿河湾は、駿河トラフを有する急峻な湾で東海地震の推定震源域である。駿河トラフから南海トラフにかけてのプレート境界では、過去にM8.0クラスの巨大地震が繰り返し発生している。駿河湾で2009年8月「静岡沖の地震(M6.5)」と2011年8月「駿河湾南西部の地震(M6.2)」の契機に、2011年11月より駿河湾中央部の石花海(せのうみ)周辺海域で自己浮上式海底地震計(OBS)を設置し地震観測を開始した。観測は3ヶ月毎に設置・回収を繰り返し行っており、7年間のデータが安定して蓄積されている。そこで、OBS観測で決められた震源要素を元に**b**値について議論を行った。

本研究では

(1) 2012年10月から2018年8月までのOBS観測で得られた震源を用いた3ヶ月毎の**b**値について

(2) 同期間のJMAデータにおける**b**値との比較

(3) 震源が集中している石花海周辺の *b* 値

について発表を行う。

キーワード：東海地震、*b* 値

Keywords: Tokai Earthquake, *b*-value